大原美術館後援会会報

丸　窓

［第26号］　2022年6月

《掲載情報》
・大原美術館活動報告
・広報室より
・学芸室より　　など

発行：大原美術館後援会事務局

大原美術館活動報告

新児島館（仮称）竣工式の様子

ヤノベケンジ《サン・シスター（リバース）》

みなさまには平素より大原美術館後援会の取組みにつきまして、ご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。大原美術館が厳しい経営環境を迎えても会員のみなさまから温かいメッセージやご支援を頂戴し、後援会事務局といたしましても大変ありがたく厚く御礼を申し上げる次第でございます。コロナ禍に陥り２年が経過しました。この期間は夏や冬のイベント、アーティストの滞在制作なども出来ず、後援会活動もままならない状況が続いてまいりました。このような状況で「丸窓」の発行もやむなく延期をし、会員みなさまにご心配とご迷惑をおかけしてまいりましたこと改めて心より深くお詫び申し上げます。ここに至って、まん延防止等重点措置適用の解除に伴い社会生活も「withコロナ時代」へ入り新しい生活様式の創造も求められているものと受けとめています。一方、世界に目を向けると、ロシアのウクライナ侵攻と心痛い情勢の中で苦悶の日々が続いています。
改めて、大原美術館に求められる使命を再認識すると共に、本物の作品の持つ力をみなさまにお伝えするべく、後援会事務局としても全力で取り組んでまいる所存でございます。

今回の掲載は昨年度の振り返りとなりますが、新児島館（仮称）の暫定開館についてお伝えしたいと思います。未だ道半ばの取組みではありますが、2021（令和３）年9月7日には竣工式を執り行い、9月29日に内覧会を開催し、後援会会員のみなさまをはじめ地元関係者へのお披露目を終え、10月１日に暫定開館を迎えることが出来ました。これもひとえに会員のみなさまのお力添えの賜物と心より御礼申し上げます。新児島館（仮称）建設に至るここまでの道程を大原美術館の想いとして今一度ご紹介し共有したいと思います。

この建物は、大原美術館の創業者である大原孫三郎により1922（大正11）年に中国銀行の前身である第一合同銀行の倉敷支店として建設されました。このように中国銀行様が長らく支店等に活用された建物（中国銀行倉敷本町出張所）が、2016（平成28）年5月に大原美術館へ寄贈されたのです。そこで私たちは、この建物において、大原美術館の誕生に貢献した洋画家児島虎次郎の絵画作品と、彼が熱意を持って蒐集したエジプト・西アジア他の古美術を展示する計画で事業を計画してまいりました。しかしながらコロナ禍で事業の進捗がままならず、建物の外観、内観は完成に至りましたが、残る収蔵庫の整備や展示ケースの製作が中断された状況です。倉敷市本町に位置する建物を正に一丁目一番地と捉え、閉め続けることを避け、何とか開館できないか？とその開館方法を模索してまいりました。この度、大原美術館と関係深い現代作家ヤノベケンジ氏の多大なるご協力により《サン・シスター（リバース）》が展示されるに至り、暫定ではございますが無事開館を迎えることができました。　（以上、大原美術館）

このような経緯を考えると、後援会としても継続支援を検討して参りたいと考えています。多くのみなさまに愛され続ける新たな魅力発信の場として、本格的なグランドオープンをご一緒に夢見て、是非、みなさまと共に歩んでまいりたいと願っています。引き続きのご支援ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

後援会事務局長　森川政典

広報室より

岡山デスティネーションキャンペーン　特別企画
大原美術館プレミアムモーニングツアー　～モネの朝食～　について

業務推進課 古和永子
（チーム つなぐ）

岡山デスティネーションキャンペーンとは、岡山県内の自治体と観光業者、JRグループ６社や旅行会社が一体となって行う大型観光キャンペーンです。
以前にもご紹介したことのあるモーニングツアーですが、今回は睡蓮の開花時期ということもあり、モネづくしのプレミアムな内容となっています。
朝の爽やかな時間、開館前の大原美術館を貸し切りで鑑賞したあとは、レッドカーペットに誘われ倉敷国際ホテルへ。
モネのレシピを岡山県産の新鮮な野菜や果物で再現した「モネの朝食」。素材を活かす味付けが野菜や果物にぴったり！
食べなれている地元野菜のおいしさに改めて感動です。さらに季節に合わせて旬な素材に変えられるとのことですので楽しみです。
ツアー料金は7,100円と少しお高めですが、満足度も高いおすすめのツアーです。　ツアーの詳細はこちら→

モネの朝食　至福のスペシャルモーニングメニューのご紹介
岡山県産「桃」と倉敷「連島ごぼう」のスムージー
鴨のパテに倉敷「藤原ファーム」の洋野菜サラダを添えて　ポタージュ・フォンダンジュ
晴れの国の「お日たま（卵）」を使ったリヨン風ポーチドエッグとボルドー風茸のソテー
ジェノバ風パン＆スコーン プルーンジャムと共に
フルーツ　コーヒー又は紅茶 はちみつクッキーを添えて

学芸室より

18年ぶりに新図録刊行！

学芸課 大塚優美
（チーム みせる）

大原美術館の新しい所蔵品図録『大原美術館＋ 作品151と建築』が、もうすぐ刊行予定です。本書では、約3,000件近い所蔵品の中から151作品を厳選し、美術館の建築物とともに紹介いたします。また、90年以上にも及ぶ美術館の歴史も随所でお伝えしており、この一冊で大原美術館のことがまるっとわかるような、盛りだくさんの内容となりました。
現在、所蔵品図録は何種類かございますが、西洋、日本近現代、東洋、工芸、古代エジプト・西アジアなどの幅広いジャンルを掲載したものは『大原美術館名作品選 155 Works from Ohara Museum of Art』のみで、その初版は2004年。そこから考えると、あらゆるジャンルを網羅した図録としては実に18年ぶり、そして初めて美術館の建物すべてを紹介した図録として、『大原美術館＋ 作品151と建築』は刊行されます。作品解説も一新したほか、高階館長と大原あかね理事長の対談記事を掲載するなど、当館をよくご存知の方々にもお楽しみいただけるような工夫を加えています。
また、この図録では表紙・裏表紙のデザインにもご注目ください。さまざまな模様が描かれていますが、これらはすべて当館の建物に使われている意匠の形なのです。この会報でもおなじみ、本館の丸窓などはわかりやすいですね。各模様の答え合わせページも用意しておりますので、図録を片手に意匠探しもおすすめです。ぜひお手に取っていただけると嬉しいです。

表紙の写真

シャルル・コッテ　《聖ジャンの祭火》
89.1×130.1cm　油彩・画布　1900年頃

キリスト教の地域で、夏至の頃に行われる伝統的な儀式を、光と影のコントラストで巧みにとらえたシャルル・コッテの《聖ジャンの祭火》。この知られざる名画が久しぶりに展示室に戻ってきました。是非、6月下旬、夏至の頃に鑑賞していただきたい作品です（本作品は、7月3日まで「この1点」として解説とともにお楽しみいただけます）。

後援会事務局より

メール会員募集中！

展覧会・イベント情報や会報をメールでお届けいたします。
ご希望の方は、下記のアドレスへタイトルを「メール会員希望」として、お名前とメールアドレスをお知らせください。
なお、封筒が招待券になる有隣荘特別公開と更新時のご案内については、引き続き郵送いたします。
supporter@ohara.or.jp

※送信いただいたアドレスに、後日確認メールをお送りいたします。
※ご登録のメールアドレスは、大原美術館からのご案内以外には使用しません。